食関連産業プロジェクト

食料供給力・競争力強化プロジェクト〔オホーツク連携地域〕

国家的・広域的な課題

■「食」の高付加価値化・競争力強化を図るためには、農林水産物・食品の安全性向上やブランド化、産業間での連携や起業による新たな価値の創造など、生産・加工・流通の各段階での地域の主体的な取組を促進することが必要です。
有機農業を始め、環境保全型農業を推進するとともに、認証制度の活用、水産物の消費拡大に向けた加工技術や高鮮度輸送技術の導入など生産物の付加価値向上や、農水産業・食関連産業の成長産業化と持続的発展を図るために、北海道のブランド力を活かし、拡大するインバウンド観光との相乗効果を図り、食文化の魅力発信を進め、高品質な農水産品・食品の輸出を一層促進し、世界市場への戦略的な展開を図る必要があります。
今回のコロナ感染症の影響では、外国人労働力に依存する生産体制のリスクが顕在化するなど、労働力不足は解消されておらず、農村と休業者等のマッチングなど労働力の確保や、スマート化による省力化の促進は急務です。経営形態の革新等、我が国の食料安全保障を支える農林水産業のイノベーションを加速化し、食料供給力の向上を図るとともに、消費者・実需者ニーズに応じた生産を推進し、引き続き農林水産業の持続的発展を目指すことが必要です。

地域のめざす姿（令和７年の地域の将来像）

■　豊かな地域資源を活かし、自然と共生する快適な暮らしが広がる「オホーツク連携地域」

連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）

■　豊富な農水産物を活かした食関連産業の振興

〇多様な主体の連携による付加価値の高い商品の開発や起業・創業の促進、雇用の創出
〇食の地域ブランドの形成・発信や国内外への販路の拡大

プロジェクトの概要

基盤整備を始め、有機農業や環境保全型農業等を推進するとともに、認証制度の活用、水産物の消費拡大に向けた加工技術や高鮮度輸送技術の導入など生産物の付加価値向上や、農水産業・食関連産業の成長産業化と持続的発展を図るために、北海道のブランド力を活かし、拡大するインバウンド観光との相乗効果を図り、食文化の魅力発信を進め、高品質な農水産品・食品の輸出を一層促進し、世界市場への戦略的な展開を図ります。

主な取組

〇食料供給力の強化

農産物の供給力強化
・農業水利施設等の機能保全・整備
・ほ場の大区画化・農地の利用集積化
・排水改良・用水改良・畑地かんがい施設の整備
・農地の冠水による農業被害を軽減する河川整備

水産物の供給力強化
・ホタテ等つくり育てる漁業を支援する施設の整備
・漁業活動を支える施設の整備
・土砂流木等による漁業被害を軽減する流域対策

農水産物の輸送を支える物流ネットワークの強化
・高規格道路等の整備
・港湾の整備

〇安全で良質な農水産物の供給力強化

安全で良質な水産物の供給力強化
・高度衛生管理に資する施設の整備

令和３年度の具体的な施策内容

・排水路の機能保全・整備のため、国営施設応急対策事業の推進【八十士地区】、国営施設機能保全事業の推進【宇遠別川地区】
・ほ場の大区画化・農地の利用集積化のため、国営農地再編整備事業の推進【津別地区】、国営緊急農地再編整備事業の推進 【雄武丘陵地区】
・畑地かんがい施設・用排水改良の整備のため、国営かんがい排水事業の推進【網走川中央地区】【北見二期地区】【常呂川下流地区】
・静穏度確保のためウトロ漁港新港地区の外郭施設等の整備推進
・湖口航路確保のためサロマ湖漁港第2湖口地区の水域施設等の整備推進
・静穏度確保のため元稲府漁港の外郭施設等の整備推進
・多様な輸送モードを活用した効率的な輸送体系の構築のため、高規格道路（ 北海道横断自動車道、旭川・紋別自動車道、遠軽北見道路）等の整備を推進
・網走港新港地区　港内静穏度確保のため防波堤改良の実施
・紋別港港町地区　老朽化対策・輸出促進に向けた屋根付き岸壁の整備
・国土強靱化のため、河道掘削等を実施（網走川）
・国土強靱化のため、河道掘削等を実施（常呂川）
・国土強靱化のため、堤防強化対策等を実施（湧別川）
・国土強靱化のため、河道掘削等を実施（渚滑川）

令和７年度（５年後）の目標

・八十士地区及び宇遠別川地区の実施により、排水機能の維持及び維持管理の費用と労力の軽減
・津別地区の実施により、ほ場の大区画化・利用集積で農産物の生産と経営の安定化
・雄武丘陵地区の実施により、ほ場の大区画化・利用集積で耕作放棄地の発生の防止、ほ場作業の委託による労働力の軽減
・網走川中央地区、北見二期地区の実施により、用水施設の整備を行い、農業用水の安定供給の確保
・常呂川下流地区の実施により、排水施設の整備を行い、湛水被害の解消の確保
・ウトロ地区新港地区の事業(推進)により、漁業活動の効率化と安全性を確保
・サロマ湖地区第2湖口の事業(推進)により、漁船航行の安全性を確保
・元稲府地区の事業(推進)により、漁船航行の安全性確保
・高規格道路（ 北海道横断自動車道、旭川・紋別自動車道、遠軽北見道路）等の整備推進により、多様な輸送モードを活用した効率的な輸送体系を構築
・網走港新港地区南防波堤改良の実施により、安定した荷役のための静穏度確保
・網走港川筋地区小型船だまりの完了により、係留場所の確保や賑わい創出
・紋別港港町地区老朽化対策の推進により、船舶の安全な係留、水産物の輸出競争力強化
・大空地区において、治水安全度の向上を図る（網走川）
・日吉・福山地区において、治水安全度の向上を図る（常呂川）
・遠軽地区左岸において、治水安全度の向上を図る（湧別川）
・紋別市市街地区において、治水安全度の向上を図る（渚滑川）

観光関連プロジェクト

観光交流推進プロジェクト　〔オホーツク連携地域〕

国家的・広域的な課題

■観光産業は、地域社会全体の利益につながる重要な分野であり、世界に評価される「世界水準」の観光地として認知され、人々を引きつける地域となるよう様々な取組を戦略的産業として、これまで以上に推進していくことが重要です。今後は国内外の感染症の状況を見極めながら、国内旅行とインバウンドの両輪による需要の早期回復を図らなければなりません。特に、来訪する外国人旅行者の満足度を一層高め、拡大を図るためには、外国人旅行者がストレスなく移動・滞在しやすい環境の整備に向けた、高速交通体系の整備を推進するとともに、交通アクセスの改善を図るため、快適・円滑な移動のための公共交通機関やレンタカーの利便性向上などを推進する必要があります。また、外国人旅行者の地方部への誘客や客室稼働率の季節較差の平準化のため、地方部の資源・特性を活かした多様な観光メニューをより一層充実させるとともに、観光地域づくりを担う人材育成を行う必要があります。
また、民間による創意工夫を活かした北海道７空港一括運営を契機に、空港運営会社、行政、商工団体、交通・観光等の関係者が連携し、新しいモビリティの導入を含めた２次・３次交通の強化等地方部への分散・周遊を支える受入環境の整備を推進する必要があります。

地域のめざす姿（令和７年の地域の将来像）

■　豊かな地域資源を活かし、自然と共生する快適な暮らしが広がる「オホーツク連携地域」

連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）

■　特色ある豊かな資源を活かした観光の展開
〇知床世界自然遺産、流氷や季節を彩る花など、オホーツクの有する魅力の効果的な発信
・豊かな自然環境や農林水産業、スポーツ・文化などを取り入れた体験型・滞在型観光の推進
〇外国人観光客に対する受入体制の整備

■　オホーツクの特性を活かした文化・スポーツの振興
〇古代遺跡群を体験する機会の創出などによるオホーツク文化の普及
・広域的なスポーツイベントの推進や幅広いスポーツ合宿の誘致

プロジェクトの概要

世界自然遺産である知床に代表される自然景観や流氷など、世界に誇れる観光資源を活かし、世界に評価される「世界水準」の観光地として認知され、
人々を引きつける地域となるよう観光を戦略的産業とした取組を推進します。
交通アクセスの改善を図るため、高規格道路等の整備を推進します。

主な取組

〇個性的で魅力ある地域づくり

住民との連携によるオホーツクの魅力の向上
・シーニックバイウェイ活動団体と連携した美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくりの促進
・かわとまちが一体となった観光振興や親水空間の創出
・北海道みなとオアシスの推進
・地域マリンビジョンの推進

観光基盤整備の推進
・高規格道路等の整備
・親水空間を形成する港湾の整備
・観光と漁業の接点となる漁港の整備

令和３年度の具体的な施策内容

・静穏度確保のためウトロ漁港新港地区の外郭施設等の整備推進
・湖口航路確保のためサロマ湖漁港第2湖口地区の水域施設等の整備推進
・静穏度確保のため元稲府漁港の外郭施設等の整備推進
・河川利用促進のため、管理用道路等の整備を実施
・観光地や主要な空港・港湾等へのアクセス強化を図るため、高規格道路（北海道横断自動車道、旭川・紋別自動車道、遠軽北見道道路）等の整備を推進

令和７年度（５年後）の目標

・網走港川筋地区小型船だまりの完了により、係留場所の確保や賑わい創出
・ウトロ地区新港地区の事業(推進)により、漁業活動の効率化と安全性を確保
・サロマ湖地区第2湖口の事業(推進)により、漁船航行の安全性を確保
・元稲府地区の事業(推進)により、漁船航行の安全性確保
・管理用道路等の整備により、橋梁部の上下流アクセス等を改善
・高規格道路（北海道横断自動車道、旭川・紋別自動車道、遠軽北見道道路）等の整備推進により、観光地や主要な空港・港湾等へのアクセス強化

環境関連プロジェクト

オホーツク環境保全プロジェクト　〔オホーツク連携地域〕

国家的・広域的な課題

■オホーツク地域は、世界自然遺産の知床、ラムサール条約湿地の濤沸湖を始め、国立公園や国定公園、道立自然公園など、かけがえのない豊かな自然環境を有しています。
地域の豊かな自然環境を国民共通の財産として、自然共生社会、循環型社会、低炭素社会の構築に向けた取組を総合的に進め、豊かな自然環境の保全、再生及び活用を図るとともに、生物多様性を確保することにより、恵まれた自然と共生する地域社会を形成し、次世代に引き継ぐことが重要です。
また、2050年カーボンニュートラル（ゼロカーボン北海道）、脱炭素社会の実現に向けて、我が国として具体的な検討が進められており、オホーツク地域の豊かな自然や地域資源を活かし、再生可能エネルギーの導入等の温室効果ガス排出削減対策や森林整備等の吸収源対策に取り組む必要があります。

地域のめざす姿（令和７年の地域の将来像）

■　豊かな地域資源を活かし、自然と共生する快適な暮らしが広がる「オホーツク連携地域」

連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）

■　人と自然が共生できる環境重視型社会の形成
・鳥獣被害の防止に向けた取組の推進
・北海道知床世界自然遺産条例に基づく知床の保全や適正な利用の推進
・林地未利用材や家畜排せつ物など、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入促進

プロジェクトの概要

地球温暖化の進展など、地球規模の環境問題が深刻化するなか、環境保全の積極的な取組が求められています。
オホーツクの豊かな自然環境の保全や再生及び活用を図ることにより、恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の構築を図ります。

主な取組

○環境の保全と調和をめざした地域づくり

総合的な流域の保全
・湖沼・河川の水質浄化対策の推進
・環境保全型農業の推進
・伐採跡地の森林整備
・土砂・流木対策
・森林認証の拡大と認証材の利用拡大

生態系との共存をめざした社会資本整備の推進
・多自然川づくりの推進
・緑化・緑地対策の推進

令和３年度の具体的な施策内容

・網走湖水環境の改善のため、大曲堰の運用等を実施
・魚類の産卵環境等の保全のため、多自然川づくりを推進（網走川）
・知床世界自然遺産へのエントランスにふさわしい景観を創出するため、地域協働による自生種に配慮した道路の法面緑化「北浜法面原生花園化“きたはなプロジェクト”」を実施

令和７年度（５年後）の目標

・大曲堰の運用等により、網走湖の水質を保全
・多自然川づくりにより、多様な生物の生息環境等を保全
・「北浜法面原生花園化“きたはなプロジェクト”」の実施により、原生花園のような道路景観を創出

暮らし関連プロジェクト

安全・安心・快適な地域づくりプロジェクト　〔オホーツク連携地域〕

国家的・広域的な課題

■近年、降雨の局地化、集中化、激甚化や暴風雪が発生しており、今後、地球温暖化に伴う気候変動により、風水害、土砂災害等が頻発することが懸念されています。
こうした様々な災害に対し、ハード対策・ソフト対策の適切な組合せによる防災・減災対策を進め、強靭な国土の形成を図ることが重要です。
安全・安心の確保は、経済社会活動の基盤であり、大規模災害等に対する懸念が顕在化する中、自然災害等による被害を最小化するとともに、広大な土地や冷涼な気候、高い食料供給力といった地域の優位性を活かし、我が国全体の国土強靭化に貢献することが求められています。
今後は老朽化が進むインフラの機能維持を図るため、事後保全から予防保全へ本格転換するとともに、新技術の活用による点検の高度化・効率化や施設の集約・再編等のインフラストックの適正化等により、戦略的なインフラ老朽化対策を推進する必要があります。
また、気候変動を踏まえた水災害対策として、北海道の流域や被害の特性を考慮しつつ、河川、下水道の管理者等が主体となって行う対策に加え、国・北海道・市町村・企業・住民等あらゆる関係者が流域全体で、既存ダムの洪水調節機能強化や土地利用と一体となった遊水機能の向上や土地利用・住まい方の工夫等に取り組む「流域治水」へ転換し、事前防災対策を推進する必要があります。

■人口減少、少子高齢化が進行する中、地方部では、高齢者の生活支援や子育て支援などの課題が顕在化しています。
人々が「暮らしたい」・「訪れたい」と感じられる魅力の向上や、生産空間での定住や交流を促進するため、景観形成等に関する地域との協働による取組や地域主体の取組の支援を続けていくとともに、地域の魅力向上につながる街並みの整備を続けることが必要です。また、地域の活動人口の増加、多様な人材の対流、地域づくり人材の発掘・育成、加えて、優れた取組等を発掘し、オホーツク地域の魅力を発信していく必要があります。
首都圏において地方移住への関心が高まっているこの機を捉え、この地域で働くことの魅力や優位性を発信するなど、企業立地・振興の取組、雇用の維持・事業の継続の支援を進める必要があります。

地域のめざす姿（令和７年の地域の将来像）

■　豊かな地域資源を活かし、自然と共生する快適な暮らしが広がる「オホーツク連携地域」

連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）

■　安心して暮らせる地域社会の形成
・医療従事者の確保や新型コロナウイルス感染症など、新興・再興感染症の発生に対応した地域医療提供体制の充実
・出産・子育て支援など、周産期医療や保健福祉の充実
・高齢化社会に対応した地域包括ケアシステムの構築
○防災関係機関や住民などの協働による災害に強い地域づくりの推進

プロジェクトの概要

洪水、雪害、地震等、頻発する自然災害に備えて、地域と連携・協働し、ハード・ソフト対策の適切な組合せによる防災・減災対策を推進し、安全・安心な地域づくりをめざします。
安全な道路交通環境の整備を行い、激甚化する冬期災害等に備えた人命を守るための各種対策を推進します。
老朽化が進むインフラの機能維持を図るため、事後保全から予防保全へ本格転換するとともに、新技術の活用による点検の高度化・効率化や施設の集約・再編等のインフラストックの適正化等により、戦略的なインフラ老朽化対策を推進します。

暮らし関連プロジェクト

安全・安心・快適な地域づくりプロジェクト　〔オホーツク連携地域〕

主な取組

○自然災害に備える防災対策の推進

安全・安心な基盤整備の強化
・流域治水プロジェクトの推進
・災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化対策
・道路施設の老朽化対策
・渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流出対策
・道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策
・道路の法面・盛土の土砂災害防止対策
・市街地等の緊急輸送道路における無電柱化対策
・ITを活用した道路管理体制の強化対策
・地吹雪等の冬期交通障害を解消するため防雪対策の推進
・大雨等による通行規制区間を解消するため防災対策の推進
・交通安全対策の推進
・効率的な道路維持・管理体制の構築
・橋梁の耐震補強対策の推進
・高波・高潮・津波対策の推進
・港湾における老朽化対策の推進
・漁港における高波対策の推進
・安全・安心な漁業活動を支える基盤整備
・漁港における長寿命化対策の推進

地域防災力向上の推進
・防災関係機関の連携強化
・地方公共団体の防災力向上
・地域との協働による防災対策の取組

災害に備えた機能分散や体制の整備
・救援物資や災害対策機械の提供
・広域的な支援体制の確立
・緊急輸送ルートになる道路網等の整備

○美しく暮らしにうるおいのある地域づくり

住民との連携による景観向上に向けた取組の推進
・シーニックバイウェイ活動団体と連携した美しい景観づくり
・ボランティア・サポート・プログラムの推進
・「わが村は美しく―北海道」運動の推進による景観の向上

令和３年度の具体的な施策内容

・国土強靱化のため、河道掘削等を実施（網走川）
・国土強靱化のため、河道掘削等を実施（常呂川）
・国土強靱化のため、堤防強化対策等を実施（湧別川）
・国土強靱化のため、河道掘削等を実施（渚滑川）
・水害による「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を実現するため、減災協議会を開催
・災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能を確保するため、一般国道238号　紋別防雪事業等を推進
・市街地等の電柱倒壊による道路閉塞等の被害を防止するため、一般国道39号電線共同溝の無電柱化対策を推進
・安全・安心な移動・生活空間を確保するため、一般国道39号交通安全対策等の交通安全対策の推進
・網走港新港地区　港内静穏度確保のための防波堤改良を実施
・静穏度確保のためウトロ漁港新港地区の外郭施設等の整備推進
・湖口航路確保のためサロマ湖漁港第2湖口地区の水域施設等の整備推進
・静穏度確保のため元稲府漁港の外郭施設等の整備推進
・漁港施設の安全性確保のためウトロ漁港、能取漁港、サロマ湖漁港、元稲府漁港の長寿命化対策の推進

令和７年度（５年後）の目標

・大空地区において、治水安全度の向上を図る（網走川）
・日吉・福山地区において、治水安全度の向上を図る（常呂川）
・遠軽地区左岸において、治水安全度の向上を図る（湧別川）
・紋別市市街地区において、治水安全度の向上を図る（渚滑川）
・減災協議会の開催により、防災関係機関の連携を強化
・一般国道238号　紋別防雪事業（令和6年度全線開通予定）等の整備推進により、災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能を確保
・一般国道39号電線共同溝の整備推進により、道路防災性の向上、安全で快適な通行区間の確保、良好な景観の形成を図る
・一般国道39号交通安全対策等の推進により、安全・安心な移動・生活空間を確保
・網走港新港地区南防波堤改良の実施により、安定した荷役のための静穏度確保
・ウトロ地区新港地区の事業(推進)により、漁業活動の効率化と安全性を確保
・サロマ湖地区第2湖口の事業(推進)により、漁船航行の安全性を確保
・元稲府地区の事業(推進)により、漁船航行の安全性確保
・ウトロ地区、能取地区、サロマ湖地区、元稲府地区の事業(推進)により、漁港施設の安全性を確保

社会基盤関連プロジェクト

広域交通ネットワーク形成プロジェクト　〔オホーツク連携地域〕

国家的・広域的な課題

■利便性・効率性・持続可能性の高い人流・物流ネットワークの整備は、農林水産業・食関連産業、観光関連産業、製造業等の移輸出型産業を始め、産業振興の基盤となるものです。
高規格道路を始めとする基幹的なネットワークは、農水産品・食料品輸送や観光等に求められる広域的な人流・物流を支える交通体系を強化する観点から、生産地や観光地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備、ミッシングリンクの解消等を推進し、かつ既存の移動手段の維持及び利便性の向上を図るなど、円滑な交通体系を構築することが重要です。
なお、地方部における安定的な人流・物流の確保は、産業振興のみならず、人々の暮らしを支えるために不可欠であり、交通関連事業における担い手確保も含めた基盤強化を促進する必要があります。

地域のめざす姿（令和７年の地域の将来像）

■　豊かな地域資源を活かし、自然と共生する快適な暮らしが広がる「オホーツク連携地域」

連携地域の主な施策の方向（今後5年程度）

■　暮らしや産業を支える交通ネットワークの形成

・公共交通の利用促進や維持・確保に向けた取組の推進

〇観光や物流、地域間交流を支えるための道路網や港湾等の整備推進

プロジェクトの概要

オホーツク地域の多様な主体が、内外の諸地域と交流し、多様な連携・協働を推進するために必要な交通・情報ネットワークの整備を図ります。
農水産品・食料品輸送や観光等に求められる広域的な人流・物流を支えるため、生産地や観光地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備、ミッシングリンクの解消等を推進し、円滑な交通体系を構築します。

主な取組

〇内外の交流を支えるネットワークの向上

交通・物流・情報ネットワークの整備

・物流・観光・生活・医療を支える交通ネットワークの整備
・情報通信体系の整備と利活用の推進
・物流拠点である網走港、紋別港等の整備

安全で信頼性の高い道路整備等の推進

・地吹雪等の冬期交通障害を解消するため防雪対策の推進
・大雨等による通行規制区間を解消するため防災対策の推進
・渋滞対策・交通安全対策の推進
・効率的な道路維持・管理体制の構築

令和３年度の具体的な施策内容

・物流・観光・生活・医療を支える交通ネットワークの形成を図るため、高規格道路（北海道横断自動車道、旭川・紋別自動車道、遠軽北見道道路）等の整備を推進
・網走港新港地区　港内静穏度確保のため防波堤改良事業を実施
・紋別港港町地区　老朽化対策・輸出促進に向けた屋根付き岸壁の推進

令和７年度（５年後）の目標

・高規格道路（北海道横断自動車道、旭川・紋別自動車道、遠軽北見道道路）等の整備推進により、物流・観光・生活・医療を支える交通ネットワークを形成

・網走港新港地区南防波堤改良の実施により、安定した荷役のための静穏度確保
・網走港川筋地区小型船だまりの完了により、係留場所の確保や賑わい創出
・紋別港港町地区の整備により、船舶の安全な係留、水産物の輸出競争力強化